INTERNATIONAL JOURNAL

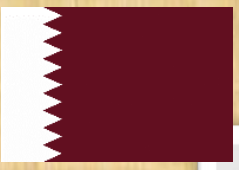
（インターナショナル・ジャーナル）

2022 winter Issue（冬号）

【四半期ごとに、環境について国際的な視点でご紹介します。】

2022 FIFA WORLD CUP

国際的なイベントで、海外の環境問題を考える！



２０２２ FIFA ワールドカップが、カタールで開催されました。国際サッカー連盟（FIFA）では、グリーンゴールという環境保護コンセプトを２００６年ドイツ大会から設定し、ＣＯ２排出量削減や廃棄物発生量の削減などに取り組んでいます。

カタール大会では、カーボンニュートラルな大会を目指しています。カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることです。

ＣＯ２排出量削減のために、スタジアム間の距離をコンパクトにすることで、移動を飛行機ではなく、電車やバスなど公共交通機関に切り替えるといった対策が取られているそうです。

今回、ワールドカップのスタジアムとしては初めて、会場の部材に再生鋼材と輸送コンテナをブロック状に組み合わせた「９７４スタジアム」を建設しました。大会後は解体され、別の資材として再利用される予定です。

ごみの搬入を見学する視察団

２０２２年１０月、カタールの自治省職員が杉並清掃工場を視察しました。

カタールでは現在ごみの大部分を埋立処理していてますが、今後は、廃棄物の発生量や埋立量を減らしていく取組を行っていくそうです。

令和４年１２月２０日発行　印刷物登録　令和４年度第９３号

東京二十三区清掃一部事務組合　清掃事業国際協力室
(Clean Authority of TOKYO, International Cooperation Department for Waste Management)
ホームページ：https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/index.html　電話：03-6238-0575

23 Clean Authority of TOKYO

【東京二十三区清掃一部事務組合は、海外のごみ問題に２３区とともに取り組んでいます。】

国連気候変動枠組条約
第２７回締約国会議（ＣＯＰ２７）

～２０２２年１１月、エジプトのシャルムエルシェイクで開催されました～

●国連気候変動枠組条約第２７回締約国会議（ＣＯＰ２７）が開催されました。
「ＣＯＰ」とはConference of the Parties（締約国会議）の略です。

●気候変動に関する話し合いをする有名な会議ですが、どのような内容が決まってきたのか条約と会議の歴史を振り返ってみましょう。

【気候変動に関する国際連合枠組条約と締約国会議（ＣＯＰ）の歴史】

開催年	採択	内容
１９９２年	条約成立	**生態系が気候変動に自然に適応**し、**食糧の生産が脅かされず**、かつ、**経済開発が持続可能**な態様で進行することができるような期間内に大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを究極的な目的としている。
１９９７年（ＣＯＰ３）	京都議定書	**先進国が温室効果ガスの排出を抑制・削減**することを定める。
２０１５年（ＣＯＰ２１）	パリ協定	世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも摂氏**２度高い水準を十分に下回る**ものに抑える。（**１．５度に制限するための努力**を継続する。）
２０２１年（ＣＯＰ２６）	グラスゴー気候合意	**１．５度を目指す姿勢を明確化**するとともに、**パリ協定の実施に必要なルールを定める**。
２０２２年（ＣＯＰ２７）	シャルムエルシェイク実施計画	地球温暖化で引き起こされる「**損失と被害**」に対応するため、基金を創設することで合意。

１１月１３日（日）に開催した環境講演会

～海外のごみ問題を学んで 身近なごみについて考えてみよう～

多数の御来場、ありがとうございました。

頂いたアンケートより

「国内、海外のごみ問題について知らないことをわかりやすく説明していただきましてとてもよく理解できました。将来こども、孫の世代に地球温暖化がこれ以上進まぬよう、一つ一つ意識して取り組むことの大切さを痛感しました。」

「練馬区立関町リサイクルセンター環境講演会での様子」